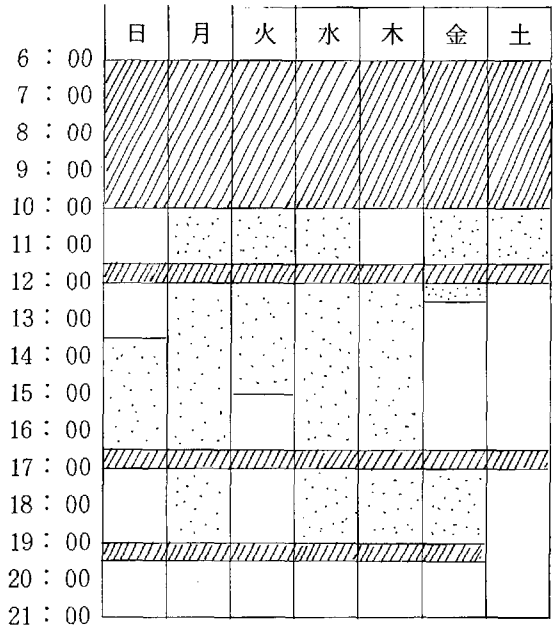
図5

成人E・Tさん（34才 障害度8度）の一週間（昭和52・12・18〜12・24）

課題に取り組んでいる時間 約39時間30分（37.6％）

自由、寛ぎの時間 約31時間30分（30.0％）

肉体的ハンディからくる自分ではどうにもならない時間 約34時間（32.4％）



5、DMP児における知能の研究

国立療養所南九州病院

西村喜文　日高一夫

杉田祥子

これまで筋ジストロフィー症（DMP）患児の知能については多くの報告がなされ、知的能力の遅滞が総合的な意見として述べられている。特にD型低ＩＱ群の知能を見た場合算数問題、絵画配列、符号問題等の成績がきわめて不良でVIQよりPIQの方が有意に高値を示しているがこれは精神薄弱児のそれとよく似た側面をもっていながら精神薄弱児との類似性が本質的なものであるかどうかは明確ではない。そこで今回は視覚的側面より知能をみることによって精神薄弱児とD型低ＩＱ群との比較を行ないD型低ＩＱ群の知能のメカニズムを明確にしたい。

〔方　法〕

当病棟入所中のD型低ＩＱ児９名（平均ＩＱ 61.1 ）と特殊学級入所中の低ＩＱ児10名（平均ＩＱ69）を対象にベントン視覚記銘検査を用いて視覚認知、視覚構成能力等の視覚的総合能力の評価を行ない、D型低ＩＱ群とコントロール低ＩＱ群と比較検討する。

〔結　　果〕

D型低ＩＱ児とコントロール群低ＩＱ児とのＩＱをマッチングさせ、ベントン視覚記銘検査を実施したところ表１のようになり、正確数平均はD型低ＩＱ児 5.8、コントロール群低ＩＱ児 7.2 であった。ＩＱとの相関関係については、D型低ＩＱ児においては相関関係はみられず、コントロール群低ＩＱ児の方では正の相関を示した。又誤謬数成績では表２のようになり、D型低ＩＱ児平均 5.1、コントロール群低ＩＱ児 4.1と差はなくＩＱとの相関関係はコントロール群低ＩＱの方に負の相関を示した。このことは、正確数、誤謬数共にコントロール群は知能水準と一致しているが、D型低ＩＱ児においては知能水準とは必ずしも一致せず巾広い変化がみられた。次に表３のように誤謬数を分類し、その差をみると、D型低ＩＱはコントロール群ＩＱよりも、より多くのゆがみとより少ない置き違いと大きさの誤りをした。

（表１）　ベントン視覚記銘検査
施行Ｃ形式Ｉ

	IQM	SD	N	t=1.495 NS
DMP	61.1	12.313	9	
MRC	69	10.718	10	

(WISC)

（表２）　誤謬数の分類

	MRC	DMP
省　略	2	2
ゆがみ	11	27
保　続	1	0
回　転	5	3
置き違い	11	4
大きさの誤り	11	9

（表３）　施行Ｃ形式Ｉ誤謬数成績

年令	欠陥有	境　界	平均の下	平　均	平均の上	優　秀
6						
7						
8	○△					
9	△					
10〜11	△			○○		
12〜14	○○△△	○△	○△	○○○△	△	

DMP　△　N=9
MRC　○　N=10

ＩＱと誤謬数の相関係数

DMP　r = 0.1351
MRC　r = − 0.703

〔考　　察〕

視覚記銘検査は、視覚認知、視覚運動、および視覚記銘要素の相互作用が関連している検査であるが。今回は知能を視覚的側面よりD型低ＩＱ児とコントロール群低ＩＱ児との質的比較を試みてみた。この検査は知能欠陥の児童でも低い成績を示す傾向があり、その点数は年令より全般的知能水準や精神年令に一致していると言われている。したがってコントロール群低ＩＱ児が知能水準と一致した成績を示すということは意図出来ることであるがD型低ＩＱ児において巾広い変化がみられることは、量的に類似性をもっていながら質的には何らかの差があることを示唆出来るものと思われる。しかし誤謬数の分類で述べたゆがみ、置き違い、大きさの誤り等の差は、この検査のもっている機能とＤＭＰ児の運動能力から考えた場合、その心理的意味づけは明確ではない。

今回は症例も少なく、又視覚記銘検査を通してのグループ間の比較しか出来ず今回の結果だけで知的側面を述べることは不十分であるが、今後更に Wisc 知能検査のサブテストとを関連づけ視覚記銘、視覚認知の視覚運動能力等の心理機能を考え。D型低ＩＱ児の知能のメカニズムを明確にしたいと思う。

6、集団行動に適応しにくい学童の生活指導

国立療養所南九州病院
郡　山　艶　子　　坂　元　美智子

〔目　　的〕

病棟に於ける集団生活は、外部社会との接触も限られ、刺激に乏しく、単調になりがちで、情緒不安定からと見られる問題行動をひきおこし、生活の流れを乱したり、無気力と思える位消極的で、自己表現に乏しく、忘れられた存在として落ちこぼれていく場合もある。この様な患児に対し　現状脱却を図り、生活のルールの必要性を認識させ、自主的に取り組む意欲を持たせ、集団行動に適応させる事をねらいとし、生活指導を試みた。

〔方　　法〕

対象児として、年令10才より12才の同室男児を中心に10名をグループとし、散歩、マイナスゲーム、トランプ遊びを用いた。

週一回実施で曜日を設定、グループの調和を考え乍ら、患児同志の話し合いで、何をするか決

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

これまで筋ジストロフィー症(DMP)患児の知能については多くの報告がなされ、知的能力の遅滞が総合的な意見として述べられている。特にD型低IQ群の知能を見た場合算数問題、絵画配列、符号問題等の成績がきわめて不良で VIQ より PIQ の方が有意に高値を示しているがこれは精神薄弱児のそれとよく似た側面をもっていながら精神薄弱児との類似性が本質的なものであるかどうかは明確ではない。そこで今回は視覚的側面より知能をみることによって精神薄弱児とD型低IQ群との比較を行ないD型低IQ群の知能のメカニズムを明確にしたし、。